

173

こんにちは。塾長の大井です。

3期生受験戦記37回です。

一日一日と時は進み、彼らと過ごす時間は日に日に長くなっていき
ました。もうどうしても受からせたいという思いしかありません。
そんな中、ただ開成だけを見据えるMさんに大きな演出の下、テスト
をしました。以下、合格体験記です。

『・・・それでもやはり開成への遠い道のりを感じることもありま
した。それが2/1の2日前なのです。大井先生が国語最終授業と何
度も告知しているものでした。さらに開成の過去問でもありました。
ぼくは絶対いい点とってやろうと思いました。しかしひどいあり様
でした。まったくとれていませんでした。あの時は悔しくて、悔し
くてしかたなかったです。あんなに目指していた開成で、ここまで
こてんぱんにされるなんて・・・

自分はまだどうしても足りてないのだと思いました。何とかしよう
と思いました。次の日、2/1の1日前、先生がチャンスをくれて開

成の過去問をまたやらせてくれました。ぼくは死に物ぐるいでやりました。ここでこてんぱんにされたらもう終わりだと思いました。そして何とか合格平均点にたっしました。先生がこれを本番で出してこいと言いました。』(原文まま)

「M、これを本番で出してこい。まさに3年間ずっとこの答案を作るためにやってきたんだ。昨日ダメだった。でも今日できた。逆だあってあり得た。前日に取れたことが何よりの吉兆だ。お前は持っている。」

そう背中を押しました。

Mくんは嬉しそうに、力強い目でうなずきました。

まさに開成受験前日のことでした。

前日。3期生との最後の授業の日です。

問題に向かって一心に鉛筆を走らせる彼らの姿に、否応なしに3年間の日々が蘇ります。

(受かろう。絶対に受かろう。)

その想いだけでここまで駆け抜けてきたのです。

一人ずつに詳細なアドバイスをし、最後のやりとりをして、彼らの

TOP での全ての授業は終了しました。

決戦前夜。

彼らと TOP での最後の時間がやってきました。

想いの全てを交わす、身内だけでの出陣式です。

いよいよ会だというその時、教室は形容しがたい空気に包まれていました。

(次回につづく)

2017年12月25日

今回が今年最後のつぶやきとなります。

今年もいろんなことがありましたが、時に学校などで辛い時間を過ごすことのあった子どもたちが、TOP だけは続けたいと心の拠り所にしてくれたことは大きな喜びでした。

来年も子どもたちの学びを支え、成長を支え、合格で応えるそんな学び舎でありたいと思っています。

よいお年を。

大井雄之